

2017 教会のクリスマス



牧師 加藤 享

人生を変えた一言

Sさんは順調な日々を送っていました。地方の支社の大勢の同僚の中からたった一人本社勤務になりました。ところが責任と同時に仕事の量も10倍に増え、いくら頑張っても先が見えない毎日になりました。あせりが募り疲労が溜まり、眠れなくなってきました。遂にうつ病と診断され、3年後に休職となり、妻も去って行きました。マンションの屋上から飛び降りしましたが、脚の骨折だけで奇跡的に助かりました。

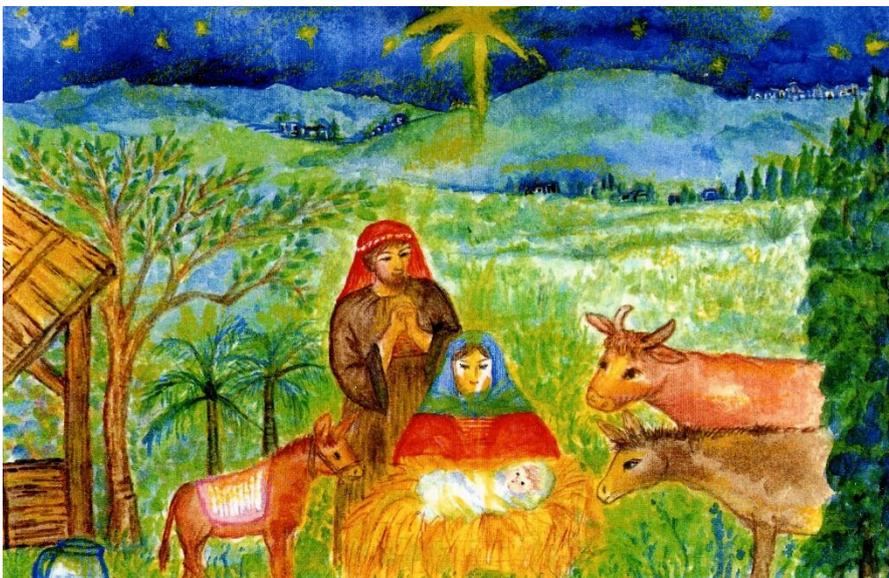
歩けるようになって、あても無く外出した時のことです。電車の中で何気なく席を譲った老女から繰り返し「有難うございます」とお礼を言われました。すると突然、深い感動が甦ってきたのです。「人生に絶望した男なのに、今こんなに喜んでもらっている。自分にも他人のために出来ることがあるのだ」

「こんな自分でも人の役に立てること、そうだ、惨めな経験でお役にたとう」。彼は講習を受けて、カウンセラーの道を歩み始めました。Sさんとの出会いによって、うつ病のつらさを慰められ、生きる新たな望を得た人が大勢生まれました。絶望していたSさんに、この様な命が残っていたのです。死なないで本当によかったですね。「与えつつ、与えられつつ、いろいろな人と一緒に生きていける。生きていて良かったなー」としみじみ感謝しています。

クリスマスの喜び

ベツレヘムの野原で、夜通し羊の群れの番をしていた貧しい羊飼いたちが、天使から救い主の誕生を告げられました。「あなたがたは、布にくるまって飼葉桶の中に寝ている乳飲み子を見つけるであろう。これがあなたがたへのしるしである」。飼葉桶の中に寝かされている乳飲み子なのですから、その母親は家畜小屋で出産したのでしょう。それなのにこの最も貧しいイエスの誕生が、昔から世界中で祝われてきました。ですからクリスマスのテーマは貧しさです。

イエス・キリストは汚い家畜小屋で生まれ、飼葉桶に寝かされました。惨めな境遇に置かれた小さく無力な命です。でもクリスマスの賛美歌は歌います。



きよしこの夜 星はひかり
救いの御子は まぶねの中に
眠りたもういと安く

きよしこの夜 み子の笑みに
恵みのみ代の あしたの光
輝けりほがらかに

神さまがこの世に送ってくださった救い主は、どんなに貧しく汚くむさくるしい所にでも、静かに優しく臨んで下さり、嘆き悲しむ心に平安と喜びを与え、明日の希望を輝かせてくださる救い主なのです。どのように惨めな境遇の人の傍らにも、そっと寄り添って、一緒に生きてくださる救い主なの

です。うつになり無気力になっても、「そのままでもいいんだよ。大丈夫。貴方にはまだ豊かに生きていける命が残っていますよ」という優しい声を聞ける人は幸いですね。Sさんは電車の中のおばあさんを通してその声を聞いたのでしょうか。

クリスマスです。教会の礼拝に集い、貧しい家畜小屋に生まれた救い主の呼びかける声をお聞き下さいませんか。

“わたしの目に あなたは価高く貴い” 聖書